

「今の人生は一度きり」  
 6年 岡田 琉久斗さん  
 みなさんは、命について考えたことはあるだろうか。簡単に「死にたい」なんて言っているのだろうか。  
 夏休みに「毎日90人もの人たちが自ら命を絶っている」というニュースを見た。とても驚いたが、僕も、思うようにうまくいかないときや、かべにぶつかったとき「もういやだ。だめだ」と簡単に口にしてしまっていたことを思い出した。  
 もっと知りたいと思いついてみると、アフリカの子供たちは先進国に比べると、死亡率が非常に高いという現状を知った。そのほとんどは、満足な医療のサービスが受けられないことが原因だった。日本とは、全然ちがう。家庭で予防できる病気でさえ、アフリカでは致命的な病となるのだ。自分は、どれだけ恵まれているのだろうかと感じた。命の大切さに気付いたしゅん間だった。  
 僕がそうであったように、みなさんも、今とても恵まれているのだということに気付いてほ

しい。そして「一度きりの人生」に感謝の気持ちをもつきっかけになってほしい。本当に辛いときはあるけれど、生きていけば何か良い方向に変わる日が必ず来るから。  
 そして僕は、生きたくても生きることができない人がいるこの世界で、感謝の気持ちを忘れずに、一度きりの人生を無駄にしないように生きていきたい。そして将来「死にたい」と思う人がいなくなるような世界にするため、ボランティアをしたり、悩んでいる人に手を差し伸べられたりできるような人になるよう努力していきたい。

**美南小学校 公式キャラクター**  
**「みなみん」**

平成25年に、児童の皆さんから募集したアイデアの良いところを組み合わせて誕生しました。  
 美南小学校の校章にも使われる「桜」をモチーフに、1年生から6年生までの願いを込めて六つの星を散りばめるなど、たくさんのお考えが詰まっています。  
 現在は、美南小学校の授業や学級活動など、いろいろな場面で活躍しています。



市長コラム  
**「価値ある未来を、共に」**



政策室  
 ☎982-5112 FAX981-5392  
 問合せ

**石碑に学ぶ水害への備え**

▼今年もいくつもの台風が日本列島を襲っています。水害が起りやすい「出水期」と呼ばれる期間は6月から10月。この原稿を書いている今は9月下旬なので、あと1カ月、大きな被害が起きないことを祈るばかりです。▼吉川市も、これまでの歴史の中で水害と闘ってきた地域の一つです。



昭和22年9月水没する上内川の様子

昭和22年の「カスリーン台風」による被害は大きく、吉川市の大半の地域が水没。水が引くまでにかかりの日数がかかったと記録されています。▼その他の水害の歴史も街の中に刻まれています。加藤地区にある「石仏 大威徳明王」はその一つで、水害に見舞われた地域の人々が、水難除けとして安永3年(1774年)に建てたものです。その姿は三つの顔、六本の手足を持ち、怒りの表情で水牛の上にまたがり、水害を起こさないよう押さえつけており、「吉川むかし

なし第2集」にも登場します▼また、明治23年(1890年)8月には、大雨により堤防が崩れ、二郷半領(今の吉川市、三郷市)は海のように冠水してしまい、そのとき、旭村と松伏領村の人々が力を合わせて水害を防いだことを記した石碑「協同碑」も川藤交差点近くに現存しています。石碑には、「皆で力を尽くし、昼夜防衛すること12日にし、ようやく水害から逃れることができた。そしてこのことを記して、子孫である人たちにも伝え、永くこの美事を語り継がせたい」とあります▼この数年で、3度の避難勧告等を発令し、いつ水害が起こってもおかしくない状況にある吉川市。石碑からこうした過去を学び、水害への対策にしっかりと活かしていきたいと思えます。



「石仏 大威徳明王」